

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	大崎市の通学路の交通安全施設等の社会資本整備（防災・安全）													
計画の期間	平成30年度～令和02年度（3年間）											重点配分対象の該当		
交付対象	大崎市													
計画の目標	緊急合同点検で抽出のあった要対策箇所エリア内の道路交通環境を改善をし、子供から高齢者の方まですべての人々が安心して通行できる歩行空間を整備することにより事故危険箇所を解消し、歩行者並びに道路利用者の安全性及び利便性の向上を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		2,429	A	2,429	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / （A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30	R2	R2
1	古川地域・松山地域・三本木地域の市街地における、児童、生徒、歩行者並びに道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、通学路の緊急合同点検による要対策箇所の整備率を100%にする。			
	通学路の緊急合同点検における要対策箇所の整備率	0%	100%	100%
	通学路の緊急合同点検における要対策箇所の整備率 = 合同点検における要対策箇所の整備数 ÷ 合同点検における要対策箇所数			

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	道路	一般	大崎市	直接	大崎市	市町村 道	交安	（１）古南１号線（穂波 工区）	バイパス L=260m	大崎市	■	■	■			367		-
	A01-002	道路	一般	大崎市	直接	大崎市	市町村 道	交安	（１）古南１号線（稲葉 工区）	バイパス L=140m	大崎市	■	■	■			280		-
	A01-003	道路	一般	大崎市	直接	大崎市	市町村 道	交安	（他）下伊場野山王線	歩道設置 L=2.5km	大崎市	■	■				950		-
	A01-004	道路	一般	大崎市	直接	大崎市	市町村 道	改築	（１）宮沢高清水線	現道拡幅 L=1.95km	大崎市	■	■				667		-
	A01-005	道路	一般	大崎市	直接	大崎市	市町村 道	改築	（他）牛沼線	現道拡幅 L=0.76km	大崎市	■	■				165		-
										小計						2,429			
											合計						2,429		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

大崎市において評価を行った。

事後評価の実施時期

令和3年4月

公表の方法

ホームページに公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

通学路の緊急合同点検における要対策箇所の古南1号線（稲葉・穂波工区）について、H30～R2までの3ヶ年で、全体延長L＝400mのうち、稲葉工区L＝140mの整備が完了し、児童や歩行者の安全性及び利便性の向上が図られた。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

子供から高齢者まで、全ての人々が安心して通行できる歩行空間の確保、及び事故危険個所の解消に寄与することができた。

○特記事項（今後の方針等）

引き続き、古南1号線（穂波工区）の整備を進め、要対策箇所の整備率100%を早期に達成する。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	100%	他事業との調整や関係機関協議に期間を要し，事業進捗に遅れが生じたことから目標値の達成が出来なかった。
	最 終 実績値	70%	